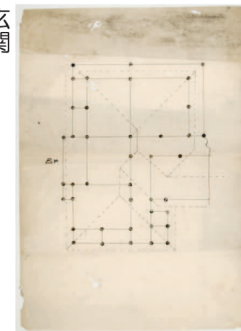


玄関

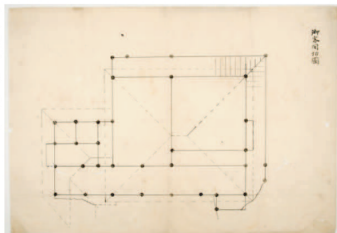


伊藤博文金沢別邸切図 [横浜開港資料館蔵]

客間・居間・湯殿・台所・玄関に分けられた古図面(年代不明)が、当時別邸を管理していた地元の旧家・松本家に保管されていたのでした。

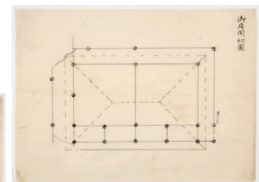
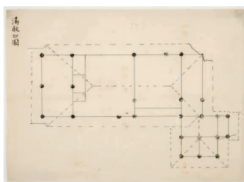
台所切図

御客間切図



柱位置、間取、屋根形状を確認することができ、復元を行う上で貴重な資料でした。

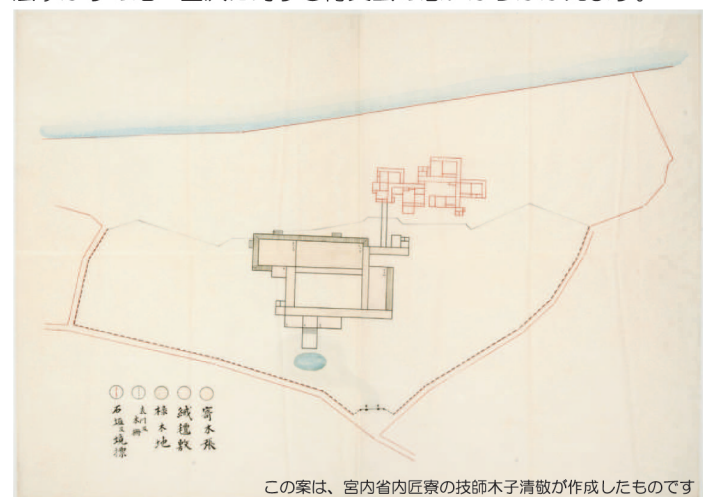
湯殿切図



御居間切図

赤坂仮皇居御会食所移築計画 [横浜開港資料館蔵]

明治39年(1906)、博文公は憲法草案の審議が行われた赤坂仮皇居御会食所を、既に建てられていた金沢別邸に接続して移築する計画をたてていました。御会食所と別邸を通路で繋ぐ計画が確認できます。結果的には、移築は実現しませんでした。明治憲法ゆかりの地・金沢に対する博文公の思いがうかがえます。



この案は、宮内省内匠寮の技師木子清敬が作成したものです



玄関正面
新築復元された台所棟玄関



玄関内部
小6畳の座敷を見る



調理場
座り流しを見る

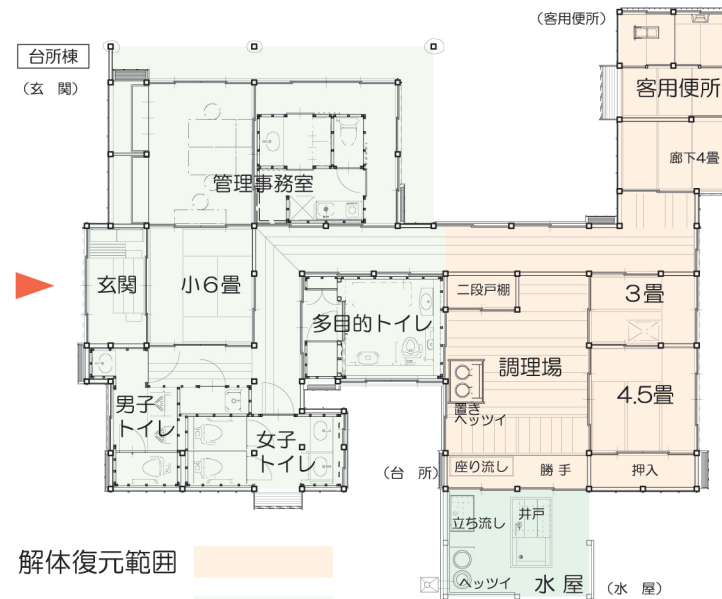


水屋 人造石研ぎ出し仕上の
ヘツツイ・立ち流し
(手前は大正時代の井戸ポンプ)

台所棟 [玄関・調理場・女中部屋が備わる棟]
別邸の玄関で、調理場・水屋などが設けられていました。(玄関) (台所) (水屋) 来客時は、地元の割烹より仕出をとっていたそうです。

旧伊藤博文金沢別邸は創建当時、客間棟(客間・客用便所)、居間棟(居間湯殿・便所)、台所棟(玄関・台所・水屋)の3棟で構成されていました。居間棟の湯殿、台所棟の玄関・水屋(新築復元範囲)は、既に壊されて残っていませんでしたが、調査資料を基に復元しました。

格式の高い客間棟を海側の最も眺望のよい位置に張り出し、各棟を雁行形に並べ、廊下で繋いでいます。



解体復元範囲

新築復元範囲



帰帆の間
客間棟より見る庭園



晴嵐の間
帰帆の間の付書院を見る

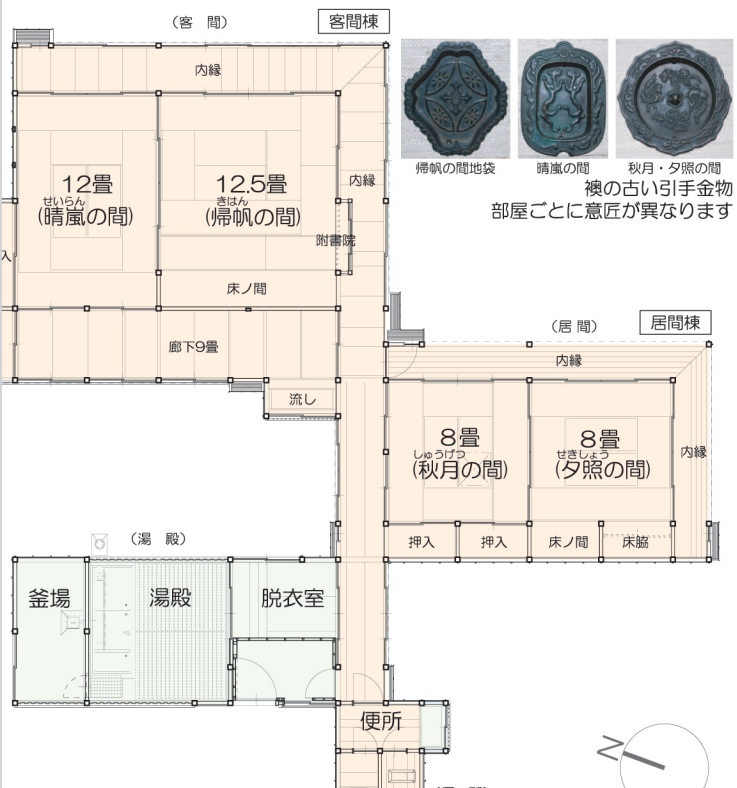


客用便所
本漆仕上の木製大便器・小便器



廊下9畳
1間巾の畳敷き廊下

客間棟 [格式の高い客室]
博文公存命の時から、天皇、皇太子をはじめ、皇族の来邸があり、この客間棟で過ごされたと思われます。



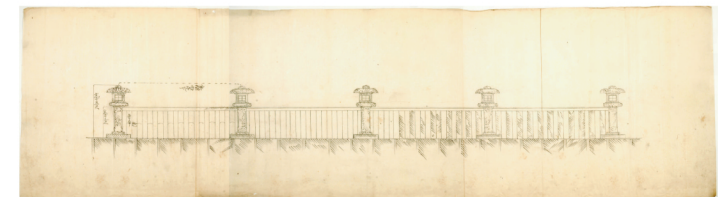
帰帆の間の地袋 晴嵐の間 秋月・夕照の間
襖の古い引手金物
部屋ごとに意匠が異なります

庭園

野島の海岸に残る明治期の松を取り込んだ貴重な風景です。海岸沿いには多くの灯籠が並び、その奥に玉垣が設けられていました。博文公が来邸する時は船で来ていたとされ、灯籠の灯りを目印にしていたのでしょうか。



庭園より見る東京湾
古図面より復元された灯籠、玉垣



灯籠・玉垣の古図面[横浜開港資料館蔵]

建物周辺は至るところに明治期の松が植えられています。雁行形の平面により、屋根(大屋根:茅葺)が入り組む、変化に富んだ外観意匠になっています。



客間棟(左奥:居間棟)



台所棟(左奥:客間棟)

居間棟 [博文公の書斎・寝室等私的空間]
日常の生活をする棟です。多忙な博文公にとって安らぎの場所が金沢別邸だったのででしょうか。



夕照の間
秋月の間を見る



湯殿
サワラ材の木製箱風呂



便所
木製大便器・小便器